

【タイム】 出合(7:10)→遊行終了(9:30)

## ユミガ沢 1992年6月13日

LE

夏合宿の偵察を兼ねて、男鹿山塊大川流域の支沢を遊行する。

7時ユミガ沢の遊行開始。大川への合流点の様相から感じた通り、平凡な沢である。何もないまま45分遊行して小休止しようとしていたら、右岸から合流する支沢から2頭のカモシカがかけ降りてきた。カモシカは今にも我々に飛びかかってくるのではないかという勢いでかけ下ってきたが、直前でカーブを切り、いったん下流へ下ったあと、また引き返して右岸の樹林帯へ消えていった。

思わぬカモシカとの遭遇のあと、気を取り直して先に進む。左右からの支沢に滝がかかるようになったところで本流にも小滝が出て来る。3m。このあと沢は岩の割れ目のような所を流れるようになり、やがて岩屑のいっぱいまったミゾ状の流れとなる。平凡なままに高度だけ稼ぐようになり、やがてガレ状となって終了となる。あとはクマザサのヤブをこいで尾根へ。

(記

【タイム】 出合(7:00)→ユミガ沢終了(8:30)→尾根(8:50)

## ヤマナシ沢右俣 1992年7月25日

LE

B

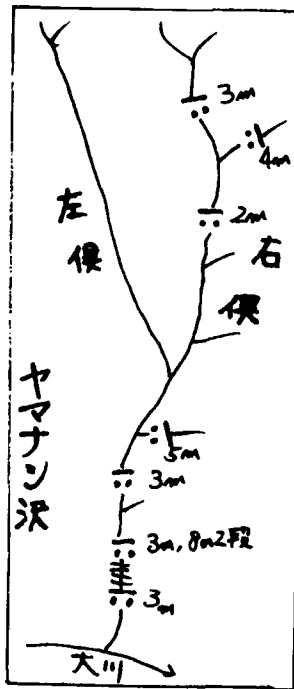
テン場にてそれぞれのパーティに分かれ、遊行予定の沢に散ってゆく。我々の目標はヤマナシ沢である。8時20分、出合。遊行開始。

すぐに最初の滝、3m。さらにナメを進んでいくと、3m、8mの2段の滝。シャワークライムで越える。そして3mの滝。これを越えると沢は平凡になってしまった。

9時20分、二俣となる。左俣は伏流状となっている。右俣に入る。左俣は帰りに下降予定である。

2mの滝を越えると、上部の二俣。我々は左に進み、最後はヤブをこいで稜線に出る。(記・一郎)

[タイム] 出合(8:20)→左俣出合(9:20)→上部二俣(10:05)→稜線(11:00)



ヤマナシ沢左俣 1992年7月25日  
L

ヤマナシ沢右俣の遡行を終え、稜線で小休止する。その後ヤブをこいで左俣に下降するが、何もないうまま右俣との出合へ。ちょっと力がぬけた感じのまま大川本流まで下って下降終了とする。

(記・一郎)

[タイム] 下降開始(11:30)→右俣出合(12:00)→下降終了(12:30)

## 只見川中流域の沢

大鍋又沢支流古滝沢(仮称)上流部 1992年8月23日  
Lp

林道終点近くから造林地の中の小沢ぞいに下り、古滝の上に出る。造林地の中は思ったよりヤブが深く、また沢に向けての小沢左岸の急斜面は途中からスラブとなってしまう、右岸側ヘザイルを使ってトラバースするなどの苦勞があり、沢に下るまで50分もかかってしまった。

古滝より上部には、小さなナメが断続する。大きな滝はかからず、小滝ばかりで、樹林帯の中をゆるやかに流れている。30分程遡ると、5mの滝。古滝より上